

**私のプロフィール**

僕は現在45歳、3人の父親で、10歳、7歳、0歳の子どもがいます。仕事では9回転職しています。出版業界が長く、楽天というIT企業で働いていた時に、NPO法人ファザーリング・ジャパンを立ち上げました。その後、昨年10月に会社を辞めて、今は専業でNPO活動をしています。

地域活動では、子どもが通う公立小学校のPTA会長を昨年4月から務めています。5年後には、中学・小学校・保育園のPTA3階級制覇を狙っています。また、2003年から「パパ's 絵本プロジェクト」として、これまで通算140回以上、延べ約4000人の子ども達に父親の絵本おはなし会を行っています。10年間父親をやってきましたが、自分が体験したことが素晴らしい出来事ばかりで、自分の世界を広げてくれることの連続でした。

**ファザーリング「Fathering」とは？**

「ファザーリング」とは、「父親であることを楽しむ生き方」、「パパを楽しもう」という意味です。現在進行形を使うことで、「もっと楽しもうよ」ということを強調したかったのです。僕は「子育て参加」「協力」「家族サービス」という言葉が嫌いです。自分の家族、家庭なのに、なぜ「参加」「協力」「サービス」なのか。「協力して」とパートナーが言うのも変です。その代わりに、前向きな父親の子育てを表わす新しい言葉として、「ファザーリング」を考えました。ファザーリングするお父さんが増えれば日本が変わるという思いを込めています。

もう一つのコンセプトは、「よい父親ではなく、笑っている父親でいよう」です。ファザーリング・ジャパン設立のきっかけは「パパ's 絵本プロジェクト」でした。活動当初、イベントの参加者はお母さんと子どもがほとんどでした。某県立図書館で開催した時に、お父さんが2組来られていましたが、絵本は母親が読むものだといった男の沽券や羞恥心があって、中に入らず、廊下で聞かれていました。そんな状況が約2年続きましたが、2005年秋頃から急にお父さん達の参加率が上がってきました。その頃、世間では「日経キッズプラス」等、父親を意識した子育て雑誌が創刊され、海外ではデビット・ベッカムやハリウッドスターの子どもとの暮らしぶりの写真が海外のメディアを通じて公開されるようになりました。日本の若いお父さん達の中に、「なんか子育てっていいなあ。子どもと一緒にファッションを楽しむってクールだな。」という空気が生まれました。そこで、お父さんの絵本ライブがあるから、ちょっと行ってみようかなという風が吹き始めたのだと思います。

**ファザーリング・ジャパンの立上げのきっかけ**

「パパ's 絵本プロジェクト」はあえて母親が選ばないような、うんち、おしっこ、おならなどの子どもが大好きな絵本や、しつけの何の役にも立たないようなナンセンスな絵本を読みます。そうすると、会場はみんな大爆笑ですが、その輪の中に入れず、全く笑わない親子が必ず数組います。両親が家で笑っていないから、子どもは笑い方を知らないのです。これは何とかして、もっと笑っているお父さんを増やさなければと思い、ファザーリング・ジャパンのことをぼんやり考え始めていました。

その焦りが危機感に変わった事件が、2006年6月に起きた奈良県長男放火殺人事件でした。これはまさに、父親の子育ての最悪の結末で、大変ショックを受けました。僕は事件当日の夜に、ファザーリング・ジャパンの企画書を一気に書き上げました。旧態依然とした価値観ではなく、自分の仕事も、子育ても、地域活動も、自己啓発もすべて肯定できる、まさにワーク・ライフ・バランスの取れた笑顔のお父さんを増やしたいと思いました。

**ファザーリング・ジャパンの仕事**

NPOの仕事は「多様な父親モデルの可視化」です。これまでは時代とともに、日本のお父さんは画一的なイメージで語られてきました。60、70年代は父親の背中を見て子どもは育つ、何も語らなくてもいいといった父親像が、80年代には「ちびまるこちゃん」や「クレヨンしんちゃん」のお父さんのように、ちょっと抜けた父親像がメディアによって刷り込まれてきました。何となくそれに準じて父親をやっているお父さんが多いのです。ところが、ファザーリング・ジャパン会員の40名のお父さん達は、ライフスタイルも仕事も価値観もみんな違います。ただ、「父親を楽しむ」ことだけは共通しています。僕はそれを見せたいし、若い世代が父親になる時に、自分と同じ業界で働いている当事者や少し先輩のお父さん達と意見交換できるような場を作りたいです。

それから、やはり父親向けの子育て情報が不足しています。母親向けの育児雑誌をむさぼり読んで、そのとりにやってしまう「良い父親」にならないために、父親らしい役割を楽しむ情報を発信していきたいと思っています。具体的には、ワーク・ライフ・バランス、男の育児休業、地域活動参加、パートナーシップ等といったテーマを掲げた「ファザリング・セミナー」、コミュニケーション力をアップするためのワークショップ、絵本の読み聞かせなどお父さん達の特技を活かした各種講座を今後も行っていきます。その他事業では、聴くと子どもに無性に会いたくなるという「お父さんソング」の音楽配信や、「パパ力」をアップするための父と子の旅行企画も案中です。また、長期ビジョンとしては父親が集うコミュニティカフェの運営、父親が主体的に運営に関わる保育園の設営、学生に対する早期教育として「父親授業」、企業内で父親研修の実施も考えています。

### **ファザリング・ジャパンのターゲット**

ターゲットは個人と企業の2つです。個人とは、お父さんの意識改革、つまり父親の自立支援です。日本の父親は経済的に自立していても、会社では組織にぶらさがって生きるしかない、あるいは家庭では妻に依存してしか生きられない人が多いのです。急激な都市化、核家族化、高度情報化が進んだ現代の母親達の環境は昔と変わっており、母親達は子育てに疲れています。また、女性の就労率も今では50%を越えている中で、日本の父親は昔と変わらないまま、同じ感覚なのです。

### **父親の自立のために**

1つ目は、「子どもが産まれたらOSを入れ替えよう」です。OSとはコンピュータの基本ソフトです。ほとんどのお父さんは「男は外で仕事、女は家事・育児」といった古い性別役割分業の意識を持っています。元々あるブラウザで、「子ども」という新しいソフトを立ち上げると、たちまちフリーズして動かなくなり、強制終了してしまいます。つまり、離婚というパターンが結構多いのです。家族や地域の人達と一緒に子育てのソフトをプログラミングできるものをぜひ取り入れてほしいと思います。

2つ目は、「義務から権利へ。客体から主体へ」です。「参加」や「協力」ではなく、自ら積極的に見つけてやっていくことです。

3つ目は、「男の育児は、質より量」です。良いとこ取り育児を止めることです。土日にテーマパーク等に連れて行っただけで、男は育児をした気になっていますが、そうではありません。量をこなしたから偉いわけではないですが、量をこなす事でたくさんの気づきが生まれ、本当の質が見えてきます。僕は上の子二人のおむつを全部で4,400枚換えました。おむつ換えが苦手でしたが、様々な気づきを得ながら、楽しみ方を学びました。また、僕は9年間毎朝保育園に通って、月曜朝の大変なシーツ掛けも楽しむことができました。

それから、子どもの成長とともに様々な絵本を読みました。これまで読んだ絵本数は約6,000冊です。その量が僕と子どもとの絆の太さに比例しているという自信が持てます。先日産まれた赤ちゃんに、娘と息子が絵本を読んでいる姿を見て、10年間絵本を通じた子ども達への思いがこうやって引き継がれていくのだと感じ、ちょっと感動しました。それはやはりその量をこなした人でないとわからない喜びです。

4つ目は、「子育てパパは仕事もデキル。育児で備わる3つの能力」です。実際に、子育てを主体的にやっていると、会社で役に立つ能力が身につきます。1つめの能力はタイムマネジメント能力、つまり時間調整能力です。早く帰るためにどうやって段取り良く、効率良く仕事をこなすかということを朝一番に考えるようになります。2つめの能力はリスクマネジメント能力、つまり問題解決能力です。子どもはいろんなアクシデントを起こします。それをいかに早く修正するか、傷口を広げないかといったことができるようになります。また、問題発生予知能力もつきます。3つめの能力はまさに次世代育成能力です。子育てが上手なパパは部下育ても上手です。部下も子どもも誉めて育ちます。そういったマネジメント能力がつきます。

それから、「パートナーシップの構築」がお父さんの最大の課題です。男は仕事、女は家事・育児というように、まるで妻を母親代わりに使っていませんか。妻の人生は夫のものではありません。妻を応援して支える姿勢を持っていれば、豊かな健全でハッピーなパートナーシップが築けます。また、それを実は子どもも見ています。

最後に、地域活動です。僕は保育園や小学校でPTAの会長を務めていて、いろんな事を学びました。子どもと一緒にいると、子どもの目線を通して社会を見るようになります。自分達の地域を守るために、様々な仕事や

能力を持ったお父さんが力を合わせて課題・問題を解決していったのです。実に素晴らしいチームワークでした。こうした自立へのいくつかのキーワードを義務ではなく、楽しい権利だと思ってほしいのです。子どもと一緒に成長するチャンスです。子どもが0歳なら、父親も0歳です。一緒に成長していけばいいのです。

### **現代の父親に必要なパパカ**

2つのポイントを挙げています。1つは、「ママを支える」ことです。ママの話聞いてあげることです。ママはそれだけで気分が晴れて、翌日も笑顔で頑張れます。それが実は子どもにとっても良いのです。子どもは自立と依存を繰り返して大きくなります。パパがママを支えることで、実は子どもの健全な発育にも繋がっているのです。もう1つは、「パパ友をつくる」ことです。パパ友の連携を作れば、いろんな情報を交換できます。僕は地域貢献ができる形を取り入れています。子育ての時代にお父さん同士の仲間を作っておくと、定年後その地域でまた遊べるようになります。

### **お父さんの育児を支える環境は不十分**

4つのフィールドで考えると、行政・自治体には多様かつ実効的なファミリー政策を考えてほしいです。延長保育の時間を延ばす等経済的な施策は行っていますが、基本的に男女平等、格差是正と言いながら、北欧のような「子育てをして男は一人前だ」という社会通念がないため、意識としてしっかりしたものがありません。

また、企業には就労環境、特に長時間労働の是正をしてほしいです。育児休業、短時間勤務といった制度の改革を進めて、運用できるように広報してほしいです。また、バブル崩壊以降、アメリカ型「成果主義」の導入により、お父さん達は翻弄されています。子育ての経験から培った能力を企業のフレキシビリティとして捉えていくような評価基準の見直しや、企業内での父親向けの研修が必要だと思えます。

最後に、地域社会やコミュニティの活性化、父親のネットワーク作りが大切です。父親の子育てを阻むものとして、一番大きいのは実は家族です。特に親世代の固執意識は大変強いです。自分達のやってきたことだけを押し付けるのではなく、時代とともに育児環境も変化していることを認識して若い世代を支援してほしいです。

また、「門番としての母親」という言葉があります。カナダの父親支援プロジェクトの大きなテーマにもなっていますが、妻が夫の育児に対して、「所詮男だから、育児なんかしてもらくなくない。私のやり方で完璧にやっているのだから、余計な口を出さないで」と引いてしまっていることです。特に専業主婦層のうち、子育てを自分の仕事化してしまっているお母さんがこのような感覚に陥りやすいです。

### **母親の自立**

女性も仕事をして、キャリアを積みたいと考える人が多くなっています。そうすると、母親は様々なネットワークを手に入れます。また、今ワーキングプアの問題があり、右肩上がりにはならないお父さんの月給だけではもう無理がきています。夫婦ともに働き、育児を行う形で、バランスが取れてきています。僕の知っている範囲で、そういう人たちがの方がハッピーなバランスで毎日を楽しんでいると感じています。

### **ワーク・ライフ・バランスの正しい理解**

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉は結構誤解されているのではないかと考えています。つまり、やじろべえ型になっていて、片方に仕事、もう片方に生活、子育、介護などいろいろあって、常にトレードオフの関係です。そうではなくて、僕らは「寄せ鍋」理論を推奨しています。つまり、お鍋の中に仕事も、子育ても、地域活動も、自分の趣味、自己啓発も、全部鍋に入れてグツグツ煮て食べればいいというイメージを持ってほしいのです。一つひとつの具材からは良い出し汁が出てきます。つまり、そこで知り合った人、培った能力が有機的に結びついて、生きてくるのが面白いのです。様々な具材から出た味がブレンドされて、この鍋はどんどん味わいを深めていきます。おいしければおいしいほど、また様々な人が食べにやって来て、具材がさらに追加されていきます。こうしていろいろな力が集積し、ネットワークが拡大していくのです。どんどん鍋を進化させていこうとする意識が大切です。ぜひお父さんにはその寄せ鍋の鍋奉行であってほしいのです。それが笑っている父親の重要な役割です。

父親が変われば社会が変わる！僕はこれを信じて、これからもいろいろとやっていきたいと思っています。

～人権男女共同参画課作成～